

6. 民衆の世界と政治意識

2025.10.30.大橋 幸泰

はじめに

本日の対象／「7 環境と生業」、「8 民衆思想と民衆運動」

→近世の民衆を取り巻く環境と民衆の主体的活動を検討／近世と近代とで、民衆世界はどう違うか？

1. 町田哲「7環境と生業」

(1) 近世の「二次的自然」への着目—農業と肥料

1990 代以降、人の手が加わった自然(二次的自然)への着目

→里山論／農用林・薪炭林が広がる里山には、生物多様性が存在／人間と自然の「共生」の典型を求める

→しかし、**里山は不変ではない**／それをふまえて、生物的知見や生業の歴史的事実を検討する必要性

a.草山／刈敷の確保のために、火入れ(山焼き)、草の刈り取りを繰り返す／草山維持には人の介入が不可欠
／ 18C 初までに新田開発による生産力が飛躍的に増加／それにともない、草山の過剰利用による自然災害が多発／

b.水辺環境／抽水植物(住宅建設に不可欠なヨシなど)の刈り取りによる、ヨシ群落の維持／沈水植物(水草)の採取は、水質維持とともに、商品作物のための肥料として利用

→近世村社会は、「新田リスク社会」であるとともに「人為的な生態系維持」による再生産

(2) 地域に根ざした生業と流通—山野河海と消費地を結ぶ

資源の採取地としての山野河海／複雑な所有関係

→たとえば、山間部農村／時期が下るにしがたって、諸産業が展開 or 変化／森林資源のあり方、貨幣経済の浸透などと連動

(3) 地域環境の影響と対応

塩業・製鉄の増産に応じて、薪炭需要の増加／里山の荒廃、河川の氾濫などの問題を惹起

* 公害問題は近現代のみの問題ではない

2. 大橋幸泰「8民衆思想と民衆運動」

(1) 「百姓成立」と「仁政」

百姓成立／百姓の経営維持のこと／被治者の百姓から治者の領主に一方的に求めたのではない

→仁政という領主の責務／百姓も領主も共有していた政治常識

* 「太平記読み」のなかの楠木正成という明君(虚構の理想像)に対して、島原天草一揆(1637-38)を引き起こした松倉重次(島原藩主)・寺沢堅高(唐津藩主)という暗君(反面教師)

→ 17C 後～ 19C 前に起こった百姓一揆は、仁政の回復を求める訴願運動

(2) 役の体系と被治者の横並び意識

仁政という領主の役割／分業化された近世身分の秩序では、あらゆる身分に役割が存在

→横並び意識の醸成／そもそも、士農工商(四民)の語は儒教文明圏社会における人民のこと

(3) 天譴と世直し

治者や四民がそれぞれの責務・役割を果たしていない／飢饉・百姓一揆・打ちこわしは天からの制裁／天譴論
→ 19C 前～中(特に幕末期)、制裁を主目的とする世直し一揆へ

(4) 民衆宗教と異端的宗教活動

19C、民衆による既存秩序への不満／世直し一揆のほか、民衆宗教としても顕然化
→民衆宗教の教祖／神がかりを経て、新しい神格の形成
→近世秩序から逸脱する世界に希望を見いだす

3. コメント

(1) 民衆世界の捉え方

1970-80 代における社会史の隆盛／民衆世界の多様性が注目されるようになったことを経て
→ 1990 代以降、環境史への注目／その背景
a. 阪神淡路大震災(1995)など、現実の災害や環境問題の惹起
b. 発展段階論への疑義
→人々の営みを歴史的に位置づけるためには、政治・経済という人為的問題のみで考えるのでは不十分
→環境の変化を念頭に置くことの重要性
*ただし、環境決定論や、人間による自然破壊・コントロール、という理解は史実から乖離

(2) 政治常識の変化

前近代社会における政治常識／世界を見渡すと、必ずしも同じではない／古典古代の理想政治
a. 東アジア儒教文明圏社会における仁政(民本徳治)／前近代の身分制を前提とする独裁制になりやすい
b. ヨーロッパ文明圏社会における民主政／マジョリティによるマイノリティへの抑圧がおこりやすい

(3) 民衆とは誰か

安丸良夫の定義「生活の専門家」
→だれもが複数の身分・属性を重層的に保持しているとすれば、生活者という属性を主軸に物事を考えたり、
行動したりする人こそが民衆

おわりに

現代人の政治常識としての民主主義／その淵源はヨーロッパ文明圏社会における古典古代の民主政
→しかし、それは完全無欠ではない／そもそも、民主主義の「民」とはだれのことか?／「生活の専門家」
*現在の民主主義は「生活の専門家」のための政治になっているか?
→日本を含む前近代東アジアにおける仁政(民本徳治)という政治常識／現代の民主主義を相対化し、そのどこにどんな問題があるかを気づかせてくれる

【テキスト】

牧原成征編『日本史の現在 4 近世』(山川出版社、2024 年)

【参考文献】

武井弘一『百姓と自然の江戸時代—ヒトの歴史に補助線を引く』(ミネルヴァ書房、2025 年)
大橋幸泰『近世日本邪正論—江戸時代の秩序維持とキリシタン・隠れ／隠し念仏』(勉誠社、2024 年)
安丸良夫『出口なお』(朝日新聞社、1977 年)

【付記】

・明日までに、Hoppiiie にて講義記録の提出を求める。